

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」新豊田校		
○保護者評価実施期間	2024年 10月 21日		~ 2024年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2024年 11月 1日		~ 2024年 11月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員の幅広さ →指導員の幅が広く、幅広い視野で子どもたちの様子をお伝えすることができる。	一人の子どもに対して、複数人で担当したり別日振替や追加の際に別の指導員が担当したりして多くの人と活動できる体制を整えている。	担当制を継続しながら、振替や追加の際に別の指導員が担当して多角的な視点で子どもたちの様子を確認できる体制を充実させていく。
2	職員の団結力 →指導員がみな素直に、全員で真摯に1つのことに向かって取り組んでいる。	季節ごとのイベントや壁面の更新をしている。チームで取り組むことでよりよいイベントの実施を目指している。 掃除なども担当制で行い、美化活動も行っている。	季節のイベント以外にも子どもたちが楽しめるイベントを充実させていく。
3	継続した支援 →小学校・中学校・高等学校卒業といった節目をもって終了される方が多い。いつまでどの程度のスキルを習得していくか未来のビジョンを共有して支援を行う。	現在の状況だけでなく、今後の方向性も見つめた支援を行っている。	保護者との相談支援の充実、移行支援の充実に向けた取り組み。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	集団療育 →現状、個別療育がほとんどで子どもたち同士の関わり方についての支援に対応できていない。	集団療育を実施するに足るスペースの確保ができていない。	少人数でも行える集団療育の実践と保護者の要望に合わせた支援内容の充実化。
2	児童発達支援における支援内容の幅 →本人に最適な療育用品等の準備ができているとは言い難い。	療育用品の少なさ。	職員のスキル向上と療育グッズの充実化。
3	個別支援として取り組んでいるが、個室が少ない。	専用の部屋の準備が行えていない。	リフォーム、もしくは移転。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」新豊田校

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数 15

回収数 15

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	12	3	0	0		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	14	0	0	1		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていませんか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	11	1	1	2		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	13	2	0	0		
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	11	3	1	0	職員により教育・知識の面でスキルの差があるように感じる。	・職員のスキル向上のため、研修への参加をより一層促していきます。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	15	0	0	0		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	13	1	0	1		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	11	0	0	4		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	14	1	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	12	2	0	1		
保 護 者 へ の 説 明 等	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	2	3	4	6		
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	15	0	0	0		
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	14	0	1	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	5	4	3	3		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	14	1	0	0		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	9	2	3	1	まだ通って1カ月位なのでわからないです。	・契約時、初回利用時にもお伝えする体制を整えます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	15	0	0	0		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3	3	4	5	親・子ども同士の交流の場があると嬉しい。	・イベントの開催に力を入れていきます。保護者も参加できるよう、工夫してまいります。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	13	1	0	1	いつも相談にのってくれ、アドバイスをくれたりと安心感がある。	・より相談しやすい環境づくりを整えていきます。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	13	1	0	1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	8	1	1	5		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	15	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	11	1	0	3		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	10	0	1	4		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	12	0	1	2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11	0	0	4		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	15	0	0	0	とても満足しています。	子どもたちが安心して通える事業所づくりを今後も心掛けていきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	13	1	0	1	毎週楽しみにしています。	保護者の方々が安心して通え、子どもたちも毎回楽しみにできる支援を目指します。
	29	事業所の支援に満足していますか。	12	3	0	0	親子ともども大変ありがたく満足しています。	子どもたちができることを増やし、自信をもって取り組める支援を今後も継続していきます。

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	こどもサポート教室「きらり」新豊田校					
				公表日	2025年 2月 15日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・個別支援が行えるよう、集中しやすい環境やこどもが楽しく過ごせる環境を明確に区別している。	・落ち着いた環境で支援できるように個室が増えるとよりよい環境になる。 ・現在の部屋数は適切であると考えられるが、部屋数を増やすことでより多くの方が利用できるようにしたい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・職員数は十分足りている状況。急遽ご利用したくなった場合でも職員数の不足で支援が行えないということはない。	・現在の部屋数は適切であると考えられるが、部屋数を増やすことでより多くの方が利用できるようにしたい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・支援をする場所を固定することで、数回の支援を通じて利用者も自分の場所がどこか認識できるようにしている。	・入口がやや手狭になっていると感じる。出入りのある時間帯になると混雑してしまい、外で待つこともある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・毎日当番制で清掃を行っており、指導員が休みの時も掃除の分担方法が決まっているため、必ず毎日清掃できるシステムになっている。 ・毎月、季節にあった壁面を利用者と作り、季節感のある環境を提供している。	・身体を使う支援ではスペースが足りず、狭く感じる。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・こどもの特性に合わせて部屋を提供することができている。	・1時間の中で入れる人数が決まっているため、部屋の変更が難しい場合は時間の調整等が難しくなる。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・毎月の事業所内会議にて、月の業務改善に向けた話し合いをしている。	・全体を進めるというよりは担当を決めて行っているため、事業所全体で1つのことを取り組めるとよい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・会議にて、意見についての検討を行った。 ・今年からは避難訓練の様子をブログで公表した。	・ブログの認知が低いと感じられる。LINE等を通じて、広く保護者に周知できるよう工夫していく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・毎月の事業所内会議にて職員の意見交換を行っている。	・全員が揃う日が少ないため、具体的に全員へ共有できる日が少ない。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	・第三者による外部評価は行っていない。	・外部からの評価は行っていないが、社内での内部監査を年に1度実施している。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・月に1度は社内研修を実施し、社内での法定研修に必ず参加している。	・全員が出られることがないため、引継ぎ等で対応しているが、正しく伝えられているか不安が残る。
適切	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・保護者のフィードバックを参考に、支援プログラムを毎回調整している。	・支援プログラムの公表に関して職員間での認知が低い。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		・定期的に保護者とアセスメントを行い、個別支援計画を作成している。	・アセスメントへの参加をより多くの指導員に普及していきたい。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・指導員も参加しながら作成をしている。	・個別支援計画作成時が主となっており、普段の様子を共有する機会が少ない。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・計画を確認しながらプログラムを組んでいる。	・担当しているこども以外の現状の様子を把握しにくい部分がある。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・きらり共有のアセスメントシートを用いてアセスメントを行っている。	・アセスメントの機会が不定期のため、定期的な実施できるようなシステムを作る。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・個別支援計画に記載されている。保護者の希望にも合わせた作成がされている。	・地域支援、連携での活動が明確化されていないため、今後の活動を決定づけたい。

な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○	・担当制のため、基本的には個々で支援内容を考えている。他の指導員のアドバイスをもらうこともある。	・複数担当であれば指導員同士で内容を決定していくが、チームとしての立案はない。より多方面から子どもたちを見つめられるシステムを構築する。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	・うまくいかないことにフォーカスを当てながら、他の方法がないか模索している。	・きらりでの活動が子どもたちの中で固定化されていることもあるため、定番のプログラムというはある。また、体験時などのプログラムを固定化するべきか検討中。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○	・個別活動のみ行っている。 ・課題に取り組む際は個別で行うが、課題が終わった後は他の子と遊びながら、社会性を身につける練習等も行っている。	・同じ時間帯の子同士でやりとりをする機会を設けているが、参加する子どもは少ない。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	・複数担当の子どもには実施している。	・チームでのやりとりはない。事業所内でチームを作成し、よりよい支援に繋がる活動をしていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	・複数担当の子どもには実施している。	・その日の内に支援の振り返りをするのではなく、早くとも翌日になることがほとんど。迅速な共有ができるシステムを構築する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	・記録に関しては記録をとっているかチェック係を設けている。 ・社内において記録に関する研修あり。	・他指導員が記録を見ることはあまりない。風通しのよい事業所にしていくためにも、他の記録を見る機会も作っていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	・定期的に実施している。	・定期的な実施は行えているが、柔軟なモニタリングはできていないと感じる。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	・サービス担当者会議においては、時間に余裕があれば他指導員も参加することがある。	・相談支援事業所との連携は電話連絡が多く、よりよい会議に結びつく機会が少ない。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	・体制は整っているが、基本は保護者を通じて行っている。	・体制はあるもののあまり利用を促せていない。認知度が低い可能性もあるので、保護者へアプローチしていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	・保護者を通じて実施している。	・子ども園や幼稚園との連携を図ることもあるが、数が少ない。それぞれの家庭で行えるようなサービスを目指す。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	・要望のある家庭には実施している。	・連携に関しては積極的に行っていない実態がある。サービス向上のためにも、実施していく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○	・発達センター主催の研修に参加している。また、年に一度訪問研修を行い、直接事業所へ赴いていただき、助言等をいただいている。	・連携の回数が少ないため、今後増加できると良い。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会があるか。	○	・きょうだいの来所はあるが、事業所に呼んで活動する機会はない。	・現状、地域を巻き込んだ活動は実施できていない。事業所の広さも考慮した活動の中でできることを考えていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	・課題後に保護者へのフィードバックを実施している。そこで相談の時間をとり、支援内容の方向性を固めている。	・相談の時間が短いため、相談支援の時間も確保できるよう保護者へ周知していく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	・直接的な声掛けは行っていないが、入り口に保護者向けの説明会等のチラシを掲示している。	・機会があれば行ってきたい。	

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・契約時やフィードバック時に必要なことを伝えている。運営規定に関しては入口に掲示し、いつでも閲覧できるようにしている。	・1度の説明では理解しきれない部分が大いいため、何度も確認できるようなシステムを構築する。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点も踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・作成時には必ず保護者に確認いただき、問題がないことを踏まえたうえでサインをいただいている。	・子どもに対する説明が足りていない。理解できるような説明を設ける必要がある。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		・作成後に説明と同意のサインをいただく時間を設けている。	・淡々とした内容になっているようにも感じる。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・保護者が家庭で困っている悩み事をきき取りはどのように声掛けして活動しているかを見学いただいている。	・見学のない家庭はフィードバック時に実施していることがほとんどで、あまり多くの時間を割けていない。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	○	・機会がなく、行っていない。	・事業所の広さも関係している。他の場所を借りる等して開催できるような動きを作っていく。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・相談の時間を確保できる体制を整えている。来所時に相談の依頼を受けても、対応できている。	・子どもへの周知は足りていないと感じる。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		・イベントや行事、教室環境等を月に2回以上ブログに掲載している。	・ブログの更新頻度と認知度が低いと感じる。LINE等での呼びかけもすくない。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・終業時には個人情報に関連するものは全て鍵付きのロッカー内に保管している。	・職員スペースが開放的なため、逐一片付けが必要となる。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・基本的には電話応対としている。フィードバック時に予定の確認をするなど、連絡事項はなるべく対面で行っている。	・LINE等文面でのやりとりができないため、手軽さに欠ける。
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	○	現在は、地域交流がない。	・招待できるスペースがない。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・洗面台横に誰もが閲覧できるように掲示している。	・掲示されていることに対する認知度は低いと考えられる。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		月に2度訓練を実施している。訓練の記録も保管されている。	・訓練内容に関しては専門性の低さがあげられる。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		・基本情報シートに記入いただいている。また、ケアが必要な家庭には事前に相談いただいている。発達センターの研修にも毎年参加している。	・指導員全員が子どもたち全員の状況を把握しきれていないわけではない。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	○	・食事提供はないが、指示があれば対応できるようにしている。	・現状対象者なし。イベントでお菓子を配ることがあるため、そこでは保護者に確認してからお渡ししている。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		・毎月の防災訓練にて実施。安全確認のリストを作成し、毎月点検している。	・ヒヤリハットの事例を毎月の事業所内会議で共有しているが、数が少ないと感じる
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		・契約時に説明をしている。子どもたちと訓練を行う機会が少ないため、認知度が低いと考えられる。	・避難時の児童引き渡しなど詳しく紙面で保護者に配布できると良い。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・会議次、ヒヤリハットを共有し、同時に再発防止策を話し合っている。	・ヒヤリハットの事例が少ないため、些細なことでも共有できる環境を整えていく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・研修と会議の際、全国の虐待事例を確認している。	・社内でも研修があるため、事業所内会議ではケース会議のみとなっている。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		契約時に説明をしている。また、身体拘束が必要になった場合は個別支援計画に記載をし、保護者に同意を得ている。	・社内研修もあるが、それほど事業所内に反映できていないように感じる。